

留学先大学：西オーストラリア大学

留学先での所属学部・研究科：Faculty of Arts

留学先での在籍身分：交換留学生

留学期間：2013年7月～2014年6月

神戸大学での所属学部・研究科：国際文化学部

学年（出発時）：3

本報告書記入日：2014年7月3日

授業について

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも含めて教えてください。
1	LING1002	John Henderson	3	6	200以上	期末試験のほかに、課題が3つあった。毎週Tutorial preparation課題がある。
2	EDUC1103	Lesley Vidovich	3	6	200以上	期末試験のほかに、Research Essay課題が2つあった（1500 and 2500 words）。課題は大変だが、自分の教育や学習経験を例にすることができるので、わかりやすいと思う。
3	ASIA1002	Stephen Dobbs	3	6	200以上	期末試験の他に、Research Essayがあった。毎週のリーディングがとても多いので大変だが、先生はとても優しくて気さくなので授業も楽しい。
4	HUMA1902	Penny Hawken	3	6	30	このUnitは大学でpresentation, research essay/report等の課題をやっていくためのSkillをつけるためのもので、基本から教えてもらえ、他のUnitに応用できる。毎週の課題やPresentation, Essayの課題もあり大変だが、ESL学生にとってはとても重要だと思う。
5	LING1001	Marie-Eve Ritz	3	6	200以上	毎週tutorialの前に課題があるのでそれを予習としてする必要がある。期末試験のほかに、大きなAssignmentが3つあった。
6	EDUC1102	Elaine Sharplin	3	6	200以上	期末試験はなかったが、その分課題が多い。授業内容を確認するOnline Quizが3つと、ミニEssayが1つ、1500wordsのEssay1つと2500wordsのEssayが1つ（授業中と同じトピックでMicroTeachingをする課題もあり）
7	EDUC1104	Mark Pegrum & Grace Oakley	2	6	200以上	レクチャーはオンライン上で、Tutorialのみ実際にAttendする必要がある。期末試験はないが、その分課題が多い。毎週オンラインアクティビティがあるほか、大きな課題が2つあった。
8	COMM1001	Tauel Harper	2	6	200以上	レクチャーとTutorialのみ。期末試験はないが、Essay課題が3つある。
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

Unitはたいいてい、lecture（45分）、tutorial（45）、workshop（45）で構成されている。たまに、レクチャーが週に2つ、Tutorial1つというUnitや、Lecture1つ、Tutorial（90分）というUnitもある。Tutorialはだいたい20人くらいのクラスで、Lectureは大教室で行われる。学期の半ばくらいに、Study breakという1週間の休みがあるが、その前後と、期末に大きな課題がある。レベルが高い学校なこともあり、現地学生は真面目に課題に取り組んでいる。

費用について

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

・航空運賃：19万（1年間のOPEN FIX）

・住居費：（月額） $\frac{10万（home stay）+ 75000円（shareh）}{6}$ ×（留学月数） $\frac{4+6}{6}$ ヶ月 = 78万・食費：（月額） $\frac{2.6万（sharehouse）}{6}$ ×（留学月数） $\frac{6}{6}$ ヶ月 = 16万

・保険料：14万

・その他：VISA関係 7.6万（健康診断2万+OSHC5.6万）

合計：134.6万（留学期間全体の費用）

その他 自由に記入してください。（800字～）

帰国して今一番に思うことは、本当にUWAに留学ができてよかったということです。帰国したくないと思うほど素敵な仲間や環境に恵まれ、本当に貴重な経験ができた一年でした。

私は、留学期間が普通とは異なって、UWAという後期からの留学で、他の留学プログラムが約9か月間なのに対し、私はほぼ12か月間の滞在でした。授業がいきなり後期レベルから始まったので、課題のEssayなどでも要求されるレベルが高く、勉強面で困難なこともありましたが、今思えば、他のプログラムで留学するよりも3か月間長く留学できたことは最大の利点だったと思います。また、今までUWAに留学した人とは異なり、大学寮ではなくホームステイとシェアハウスをすることに決めたのも、よい選択でした。もともとは、大学寮の入寮のための面接まで終わって、ほぼ入寮が決まりかけていましたが、やはり金銭的な問題で入寮を断り、自分でホームステイ業者を調べて手続きを行いました。ホームステイ斡旋業者は多く、見つけることは簡単でしたが、パースに業者があるので連絡を取り合ったり、信用性を判断するのが大変でした。結局、以前UWAから神大に留学に来ていた知り合いの繋がりや、ホームステイ業者の情報を得て、Talkabout Toursという所で申し込みをしました。自己紹介や希望のホストファミリーの構成等の情報に基づき、業者がマッチングをし、ホストファミリーが決定しました。業者からはファミリーの基本情報が提供され、その後のやりとりは直接自分とファミリーとでとり合う形でした。ホームステイでは、現地の実際の生活を経験することもでき、家族とのコミュニケーション、ホストシスター、ブラザー、ハウスメイトとの人間関係を築けたことは、一生の思い出になりました。また、生活スタイルや習慣も日本とは異なり、そういった部分を家族と話し合ったり、日本文化を伝えたりできたこともよかったです。大きなトラブルは特にありませんでしたが、自分の生活してきた「当たり前」が、ここでは全く通用しないということを感じ、自分自身も成長することができたと思います。

留学後期は、シェアハウスに移りました。それもまた、自分で調べ連絡をとり、お金や食事はもちろん、家事と学校の勉強の両立をするいい機会となりました。また、自炊をするにはスーパーでの買い物等もする必要があったので、活動範囲も前半よりもかなり広くなりました。元は、他国籍のシェアハウスを希望していましたが、条件にあう所がなかなか見つからず、考えた結果日本人とのシェアになりましたが、今思えば、日本語と英語が混在する環境に慣れるという意味でも良かったですし、逆に自分から貪欲に英語を使おうとできました。

留学は確かに大学での勉強が大切で、課題に費やす時間は多かったです。大学と（図書館と）家の往復ばかりの日々では英語力も経験値も伸びないと実感しました。留学前半がそういった感じで、早く帰国したいという思いが強かったです。しかし、後半に入り、勉強の要領もつかめ、生活にも慣れ、シェアハウスに移動したことで自由時間ができたということもあり、課外活動や友人関係を重視した半年を送ることができました。比べものにならないほどそれは楽しくて、充実した日々でした。留学で勉強ばかりは本当にもったいない！パースではいい意味で、「日本人」を捨てることができ、周りの目を気にしたりはせずに自分の目標や興味に挑戦できました。「自分から積極的になれば、たいいていできないことは無い」ということを実感しました。恥ずかしいとか、失敗したらどうしようとかを考えずに、いい意味で開き直って学べば、本当に充実した留学生活を送れると思います。特に、他の都市に比べ、パースは日本人がまだ少ないので、チャレンジも多いですが、その分自分を成長させることができる環境には恵まれています。また、Swan Riverや町の至る所にある緑、野鳥、水鳥、さまざまなバックグラウンドを持った人との出会い、日本にはないゆったりとした時間の流れは、本当に大好きになりました。また必ず戻りたい！と思える土地、人に出会えたことに感謝しています。